

筑波大学附属小学校を拠点とした派遣現職教員支援システムの構築

田中 統治

(筑波大学人間総合科学研究科)

ありがとうございました。まだフロアからご質問あると思うのですが、時間が来てしまいました。ご登壇していただいた先生方、本当にありがとうございました。私はほとんど何もすることがなくて楽だったんですが、お話をお伺いしていて JICA が掲げている“内なる国際化”ということを考えていました。

今ですね、外国人児童への対応ということで現場が非常に困っているときに、派遣隊員の方々の力になんか頼れるんじゃないかとそういうきっかけになっているというのは、私はある意味で日本が“内なる国際化”という課題に直面したときに、まさしくこの帰国をされた隊員の皆さんの力が頼りにするとか、まさしくニーズがそこにできているなということを感じました。たぶんこれまでは帰国された隊員というと外国旅行から帰ったみたいな感じですね、私も実は留学したりして帰ってくると今まで遊んでたんだからみたいな大学でそういうことで急に仕事がいっぱい増えたりということもあったんですが、実は非常に重要な研修の経験を積まれて帰ってこられた方々で、その方々はただ単なる言葉の通訳とかそういうような力を持っていらっしゃるというだけでなく、非常に教師としてのコミュニケーション能力を高められた方たちなんだということを行政や堀口先生のいらっしゃる城山校長先生のように、非常にそういう人たちの力を現場でさらに生かしていこうというような先生たちの研修といいますか、そういうものがだんだんと広がってきているなということを感じております。そういう意味で今日隊員のみなさんの派遣経験を生かした教育活動ということについて更なる可能性を感じている次第です。

私たち今、帰国された先生方への支援事業といっているのですが、どうも先生方はほとんどサポーターを増やしていったとか自分たちで作っていったとか、余計なお世話と言われそうな感じもちょっといたしました。私たちもそういう先生方の活動から大変多くのことを学ばせて頂いているなというふうに思います。そういう意味で、こういう現職派遣隊員の先生方の経験というのは教育の現場に新しい意味での国際協力のスタイルといいましょうか、サポーターを増やしていくということでの新しい教育活動になっているのではないかなということを感じた次第です。それぞれの先生方も新しい専門性を獲得されたお姿を見させていただきました。どうもありがとうございました。